

## 日本情報科教育学会第4回全国大会を終えて

第4回全国大会実行委員長 西端 律子（畿央大学）

この度、東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈りしたいと思います。日本情報科教育学会第4回全国大会の茨城大学での開催は、第4回全国大会実行委員会の状況報告を受け、中止が決定されました。よって、急遽代替として奈良県の畿央大学で開催することとなりました。

初日（2011年10月15日）は時折小雨の降るなか、2日目（16日）は打って変わって秋晴れのもと、日本情報科教育学会第4回全国大会が開催されました。北は北海道から南は大分県まで187名（実人数）の方にご参加いただきました。

文部科学省、奈良県教育委員会、広陵町教育委員会、奈良県高等学校情報教育研究会の各団体から後援をいただきました。その他多くの諸団体から協賛いただきました。また、14社の企業様には展示・広告・寄付をいただきました。ありがとうございました。

立て看板は、奈良県ビジターズビューローの補助をいただきました。また、10名の大会企画委員、22名の大会実行委員、17名の学生及び卒業生有志、そして畿央大学の教職員、多くの個人の方からご協力を賜りました。この場を借りて御礼申



し上げます。

初日は、西野和典大会企画委員長の開会の挨拶から始まり、4つの分科会と企画セッションが行われました。分科会は22件の発表があり、情報モラル、プレゼンテーション、アルゴリズム、プログラミングなど日々の実践をまとめられた研究や、情報科教育法や教育実習など大学での取り組みをまとめられた研究などが報告されました。

また、企画セッションは「情報科教育の発展のために－中学・高校・大学の接続とその新たな学力の涵養－」をテーマに、松原伸一先生（滋賀大学）、小泉力一先生（尚美学園大学）、佐藤万寿美先生（兵庫県立西宮今津高等学校）の各先生方か





ら現状と課題が述べられ、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

その後、大学食堂地下にて、畿央大学のアカペラサークル「アドバンス#」によるオープニングにより、懇親会が開催されました。100名近くの方が参加され、初日の感想はもちろん、今後の情報科教育のあり方など、日頃なかなか会えない先生方同士でお話は尽きないようでした。途中、実行委員の野部先生によるシャンソン独唱もご披露いただきました。

お料理は畿央大学の食堂業者が用意しました。ご飯の上に、蒸した鶏肉、海苔や昆布などの「ご飯の友」のをせ、お茶をかける「奈良茶づけ」をメインとし、その他柿の葉寿司、奈良漬、柿最中などの地元名産品も2社の企業様のご寄付で用意しました。そして本来は茨城県で行われる予定だったことを忘れないためにも、茨城の地酒と牛久ワインもご用意いたしました。

2日目は午前中に4つの分科会が行われました。19件の発表があり、大学における情報活用能

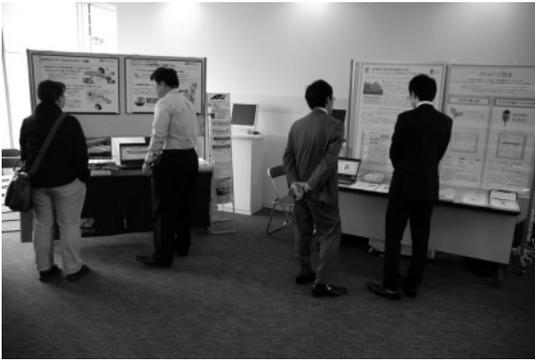


力向上のための取り組みや海外の事例、専門教科での実践、プロジェクト型の授業実践、中学校との連携などについて報告がありました。

例年、ストップウォッチとベルで発表時間をお知らせしていたのですが、今大会では実行委員の杉崎先生、竹中先生らのご協力で、iPad、スタンド、スピーカーを準備し、会場系の学生がタイマーを設定することで、発表者にも参加者にも時間がわかるようにしました。非常に好評だったため、来年度以降も引き継げるようにしたいと思います。

午後からは総会、会場校の畿央大学白石裕教育学部長より挨拶があり、引き続き、岡本敏雄会長による基調講演「民主主義の国力の涵養と情報科教育—新たな学力の創造—」が行われました。そして、文部科学省生涯学習政策局新井孝雄参事官による招待講演「教育の情報化に対する文部科学省の施策」が行われました。いずれも今日の課題であり、最新の情報と今後の展望が述べられました。





また、受付から発表会場に至るオープンスペースを活用し、初日から企業展示を行いました。12社から13ブースご出展いただき、授業に活用できる教材・教具やコンテンツ、情報活用能力育成のためのテキスト、学習者の学びを蓄積するポートフォリオシステム、ネットワーク機器や電子黒板の展示など、多種多様な製品のデモンストレーションがありました。

全体会場（冬木記念ホール）前のロビーはポスター会場を設置しました。9件の発表があり、自治体をあげての取り組み、開発した教材やシステムの展示や実演などポスターセッションならではの熱い質疑応答が行われていました。

また、今年よりポスターセッションには「コアタイム」を設け、発表者がその時間には必ずポスターの前で説明を行うようにしました。しかし、今年度は会場校の都合で1日半という短縮日程であったため、ポスターセッションを独立して設け



ることができませんでした。この点については来年度以降の大会への課題としたいと思います。

全国大会の最後はパネルセッション「情報科教育における教育の情報化」が行われ、文部科学省初等中等教育局永井克昇視学官から話題提供をいただき、西野和典先生（九州工業大学）、米田謙三先生（羽衣学園中・高等学校）からそれぞれで展開されている実践事例の報告がありました。質疑応答では、岡本敏雄会長をはじめとし情報科の「科」の意味について、熱い議論が行われました。

なお、本大会準備中に発生した台風12号により、奈良県南部をはじめ、紀伊半島には大きな被害が及んでいます。何かできることはないかとの思いで、受付に学生手作りの「台風12号災害義援金」箱を設置し、5,685円のご厚志を頂戴しました。繰越金の一部、懇親会の余剰金とあわせ、67,000円をご後援いただきました奈良県教育委員会と相談し、被災地の奈良県立十津川高等学校に寄付させていただきました。

新教育課程では、情報のあり方、そして情報と人とのかわり方が重視されています。本大会が人と人をつなぐ情報の役割を再認識し、次世代に伝える機会になったことと信じてやみません。第5回大会は2012年6月16日（土）～17日（日）に信州大学（長野県長野市）で開催される予定です。続報は日本情報科教育学会Webサイト（<http://jaeis.org/>）をご覧ください幸いです。